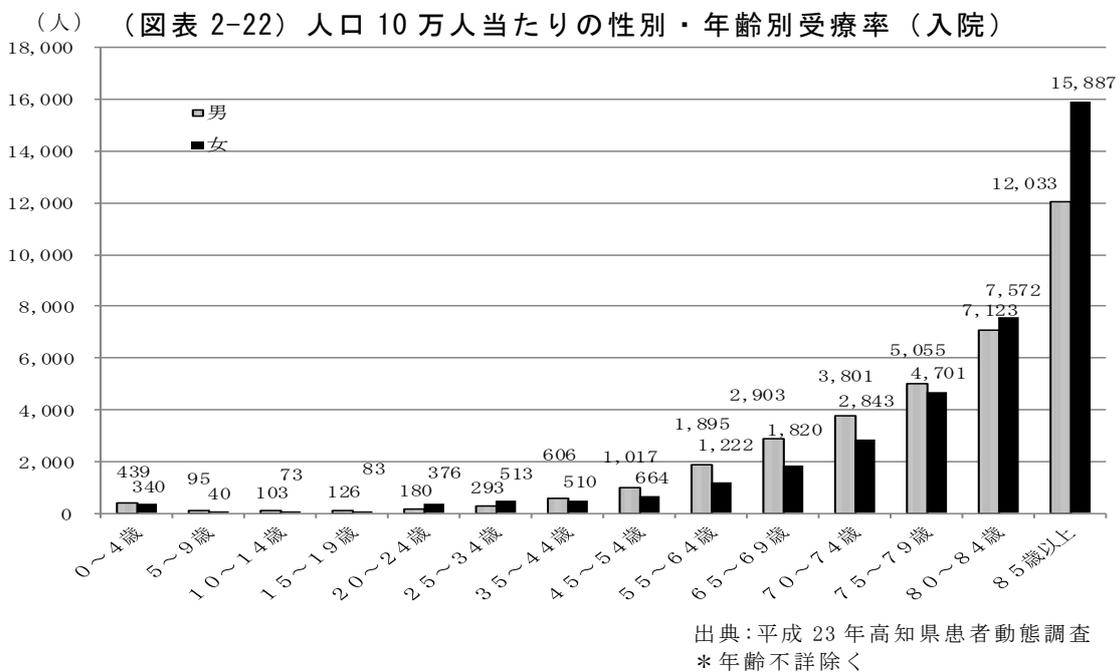
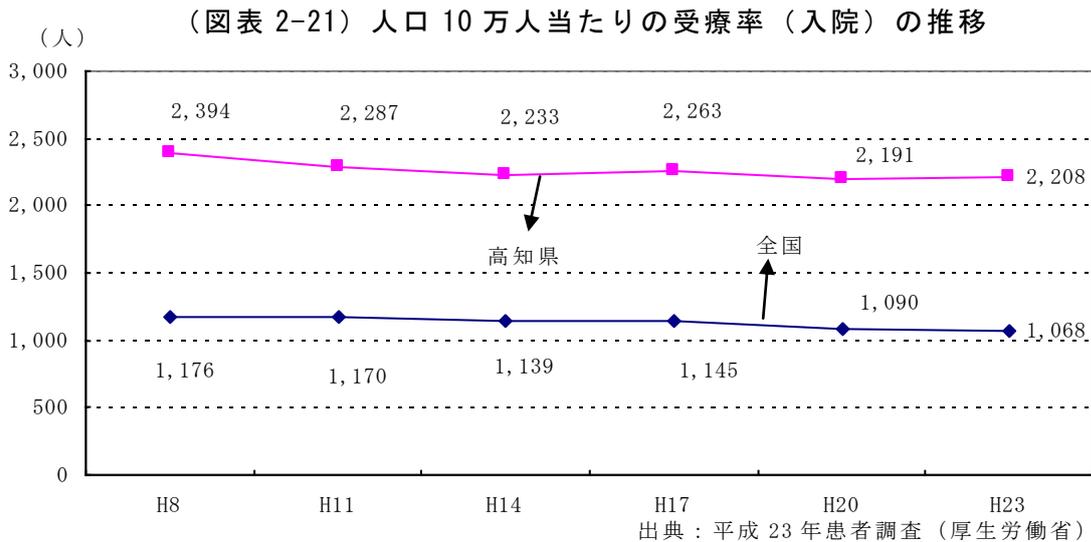


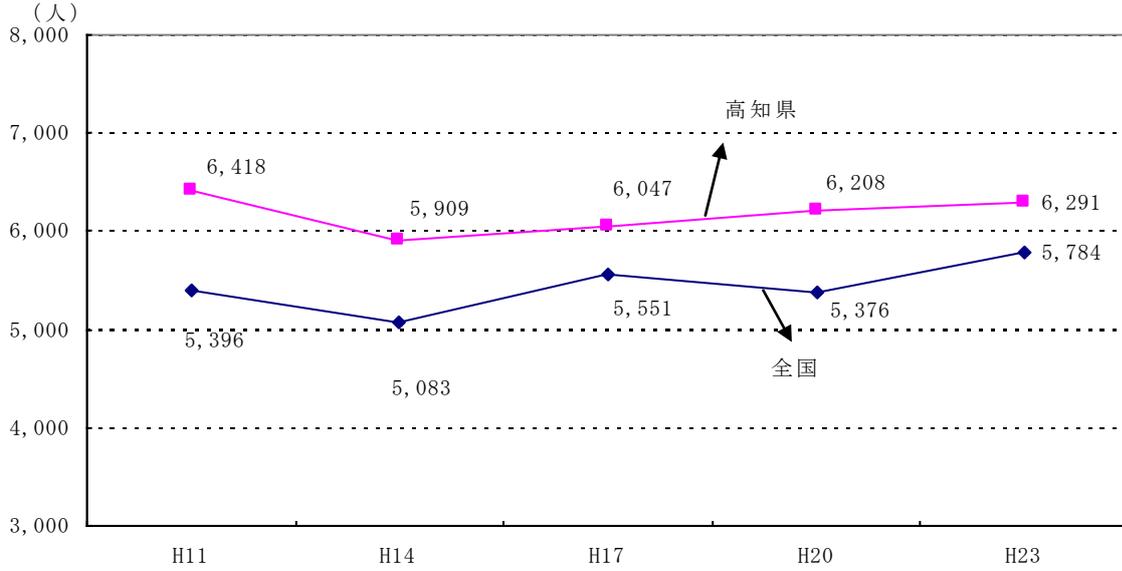
## 第5節 県民の受療動向

### 1 一日平均受療率

本県の人口10万人当たりの一日平均の受療率は、全国平均を大きく上回っています。入院患者の受療率は2,208人で、全国平均1,068人の約2倍、外来患者の受療率も6,291人で全国平均5,784人を上回っています。

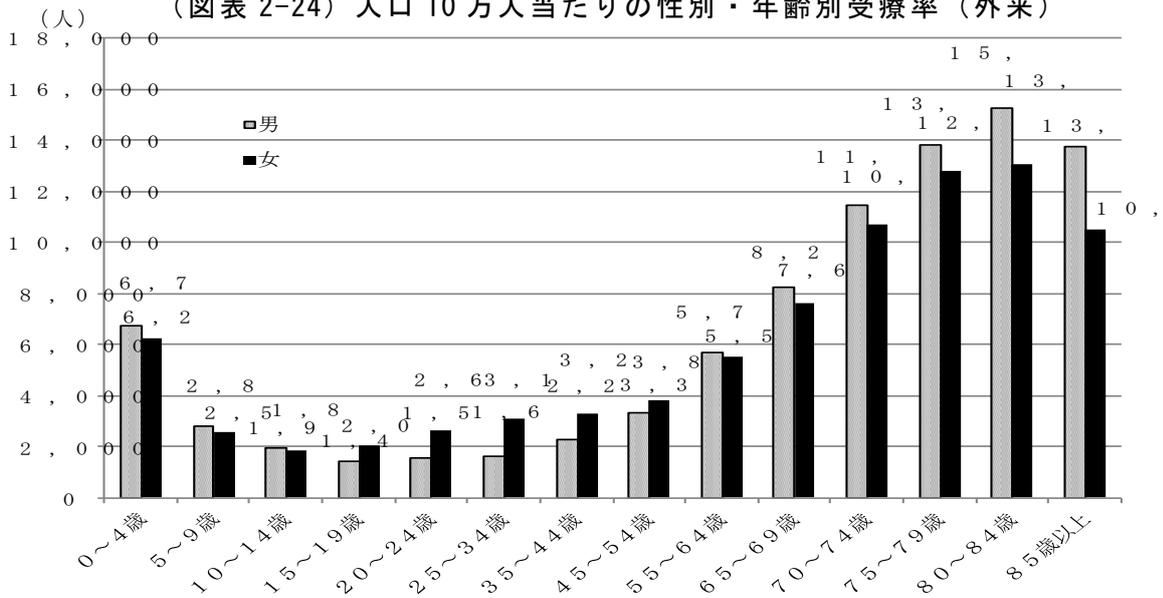


(図表 2-23) 人口 10 万人当たりの受療率 (外来) の推移



出典：平成 23 年患者調査 (厚生労働省)

(図表 2-24) 人口 10 万人当たりの性別・年齢別受療率 (外来)

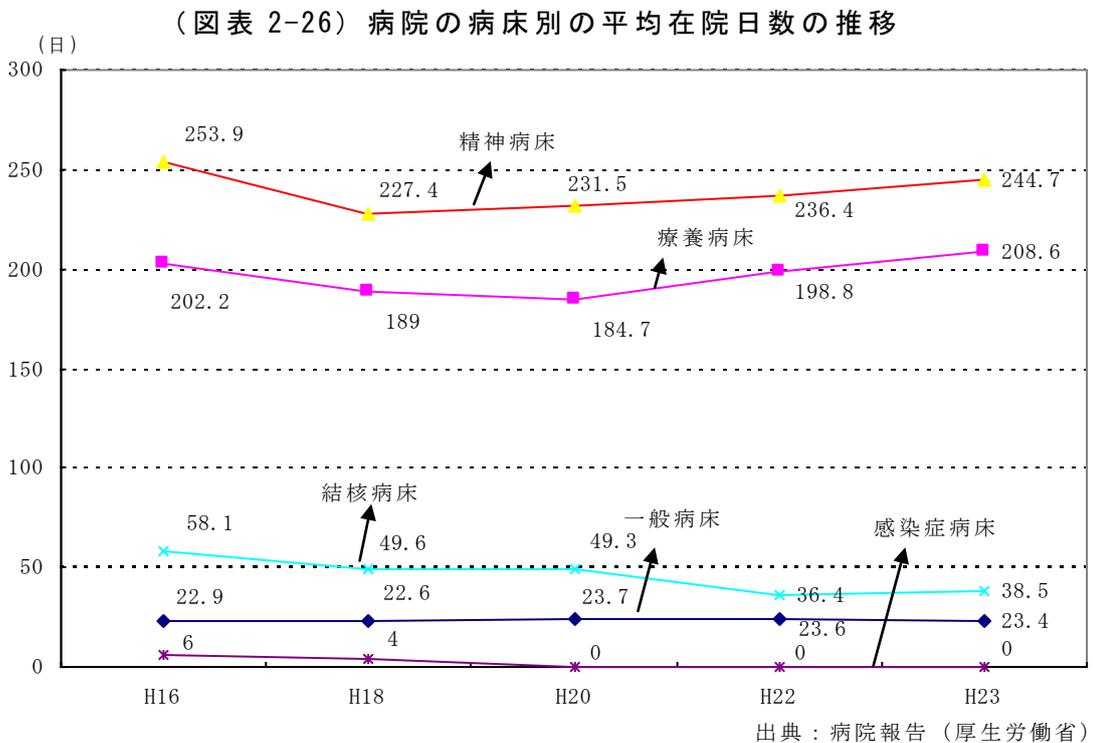
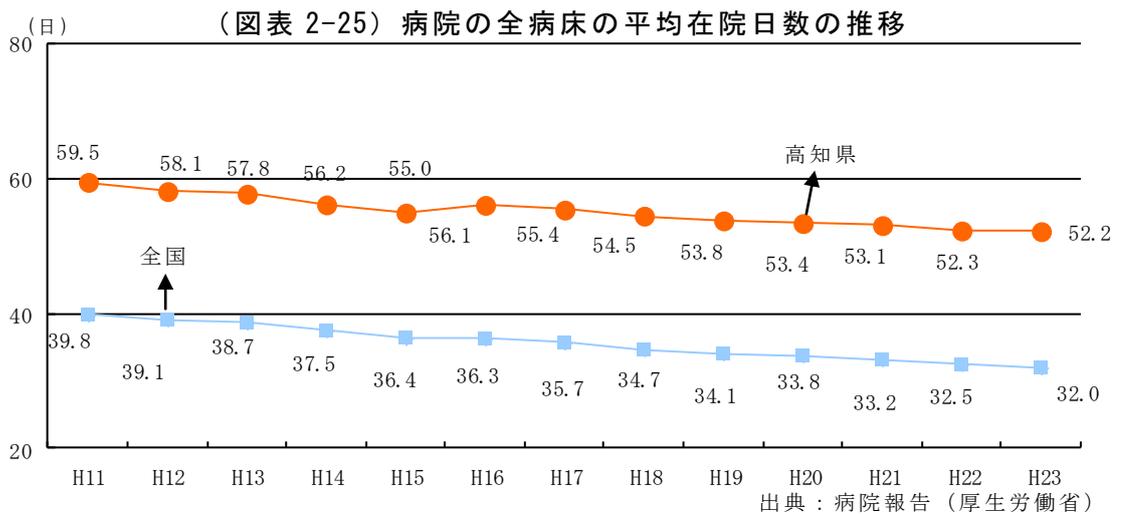


出典：平成 23 年高知県患者動態調査  
\* 年齢不詳除く

## 2 平均在院日数

平成 23 年の病院の平均在院日数は、「全病床（介護療養病床含む）」は 52.2 日で、全国平均の 32.0 日を大きく上回り、全国第 1 位となっています。

病床別にみると、「一般病床」では 23.4 日と、全国平均の 17.9 日を上回っており、「精神病床」では 244.7 日と全国平均の 298.1 日を大きく下回っています。また、「療養病床（介護療養病床含む）」では 208.6 日と全国平均の 175.1 日を大きく上回っています。



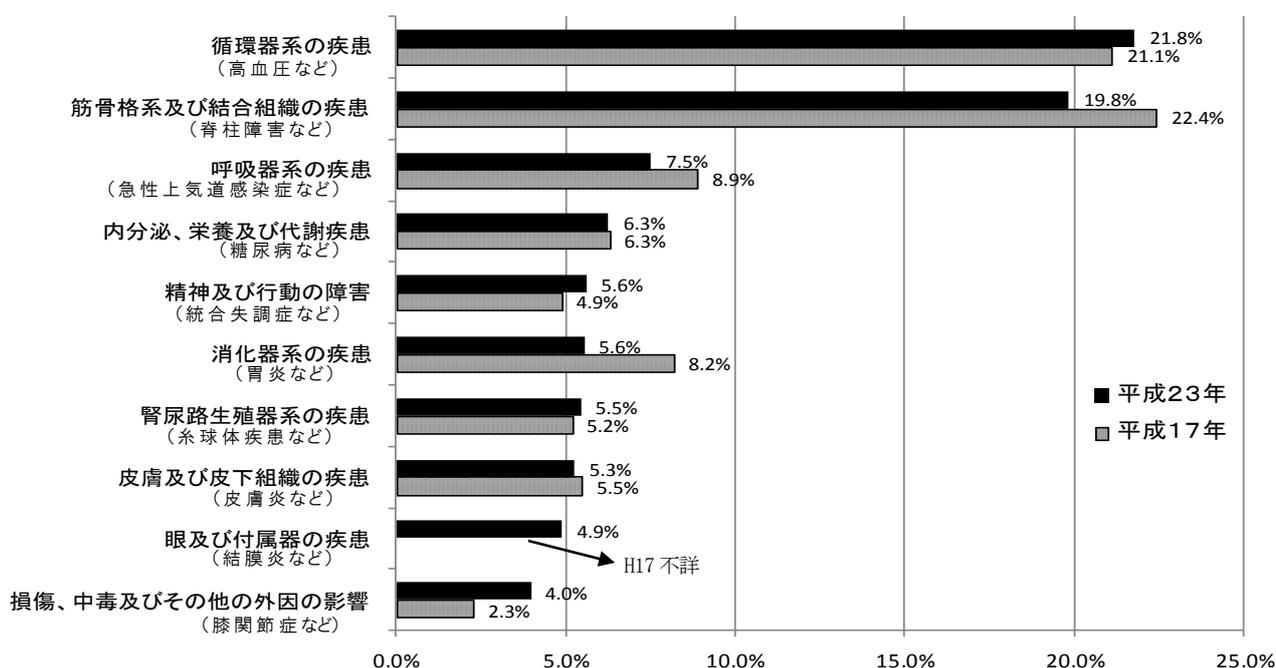
### 3 外来患者の受療動向

#### (1) 受療原因別の外来患者数

平成 23 年に県が実施した調査では、当日（9 月 16 日）に県内の医療機関を外来で受療した患者は、43,812 人（平成 17 年の同調査 46,029 人）となっています。

疾患別にみると、高血圧などの「循環器系の疾患」が 21.8%と最も多く、次いで、脊柱障害などの「筋骨格系及び結合組織の疾患」19.8%、急性上気道感染症などの「呼吸器系の疾患」7.5%となっています。

(図表 2-27) 受療原因の上位 10 位（外来）



出典：平成 23 年高知県患者動態調査

(図表 2-28) 年齢階層別にみた受療原因の上位 3 位（外来）

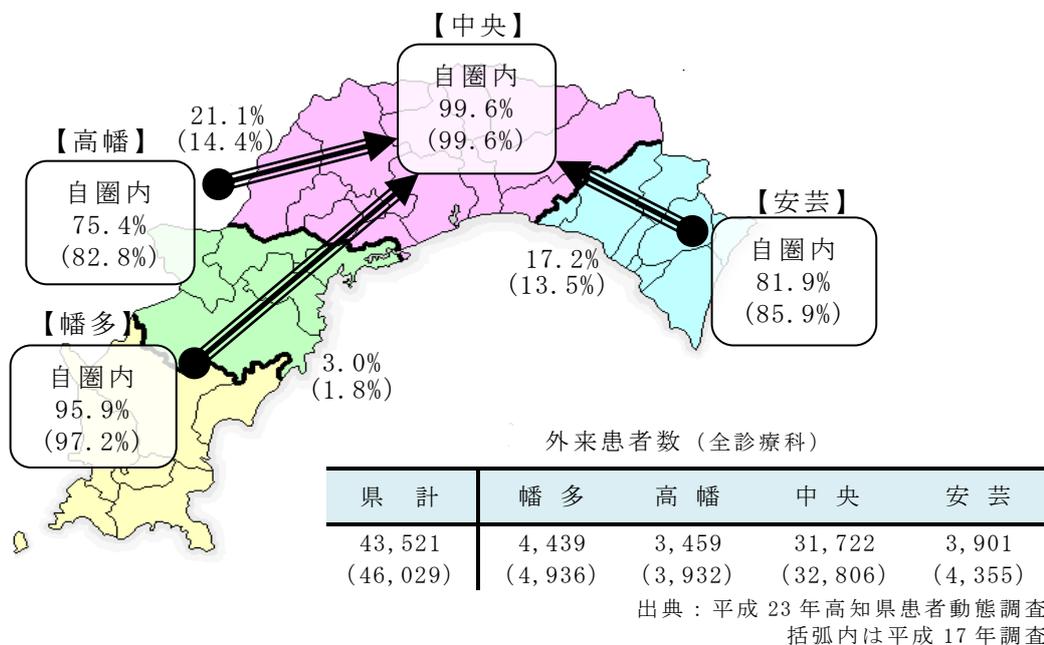
年齢階層	第 1 位	第 2 位	第 3 位
0～14 歳	呼吸器系の疾患	皮膚及び皮下組織の疾患	耳及び乳様突起の疾患
15～24 歳	皮膚及び皮下組織の疾患	呼吸器系の疾患	精神及び行動の障害
25～44 歳	精神及び行動の障害	呼吸器系の疾患	筋骨格系及び結合組織の疾患
45～64 歳	循環器系の疾患	筋骨格系及び結合組織の疾患	内分泌、栄養及び代謝疾患
65 歳以上	循環器系の疾患	筋骨格系及び結合組織の疾患	内分泌、栄養及び代謝疾患

出典：平成 23 年高知県患者動態調査

## (2) 圏域別の受療動向

中央圏域と幡多圏域では、ほぼすべての患者が、在住する圏域で受療していますが、安芸圏域では 17.2%、高幡圏域では 21.1%の患者が中央圏域で受療しています。

(図表 2-29) 外来患者の受療動向 (全診療科)

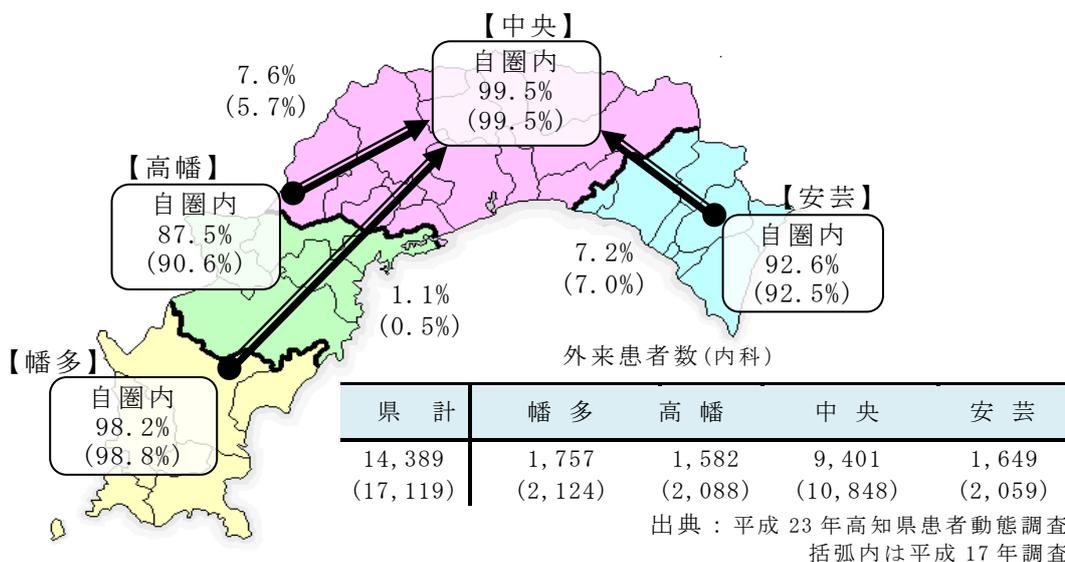


## (3) 診療科目別の受療動向

### ア 内科

各圏域とも、圏域外での受療は少なく、ほぼ在住する圏域内で受療しています。

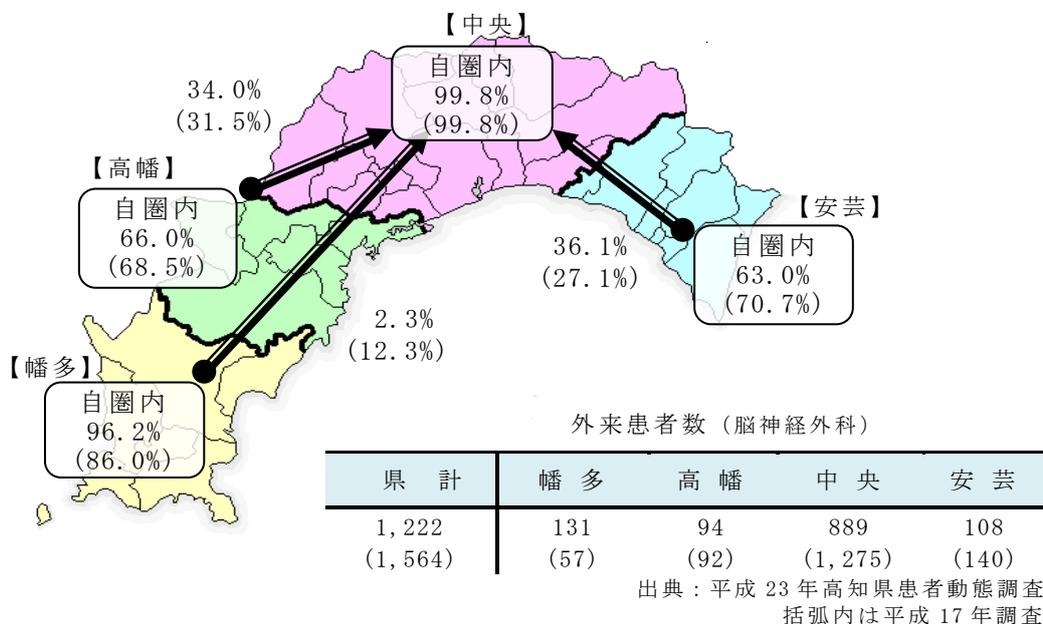
(図表 2-30) 外来患者の受療動向 (内科)



## イ 脳神経外科

安芸圏域では 36.1%、高幡圏域では 34.0%の患者が中央圏域で受療しています。また、中央圏域と幡多圏域では、ほぼ在住する圏域内で受療しています。

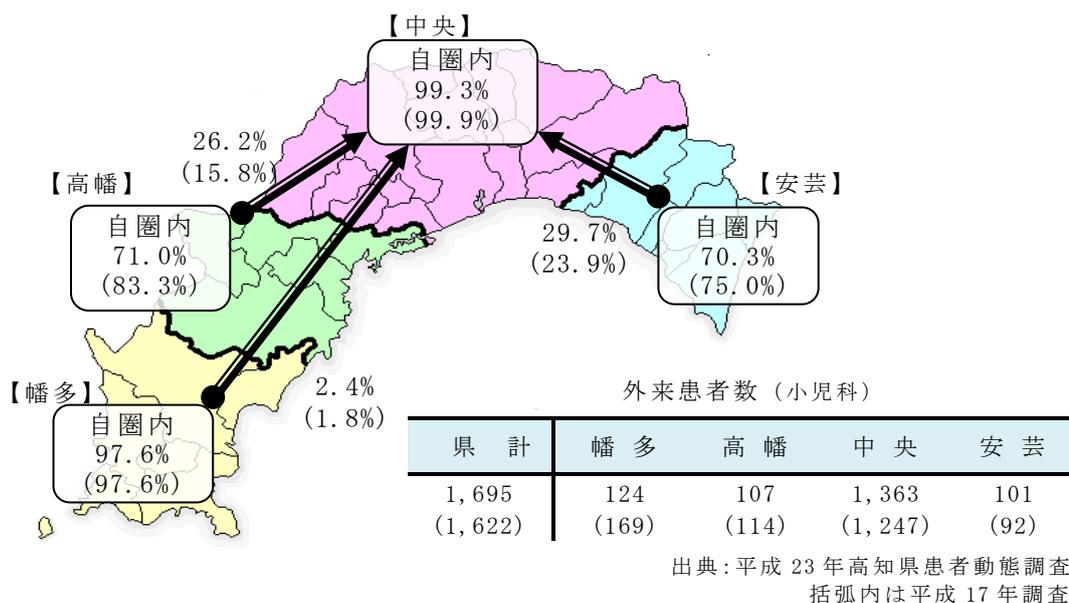
(図表 2-31) 外来患者の受療動向 (脳神経外科)



## ウ 小児科

安芸圏域では 29.7%、高幡圏域では 26.2%の患者が中央圏域で受療しており、平成 17 年と比較すると、その傾向が進んでいます。

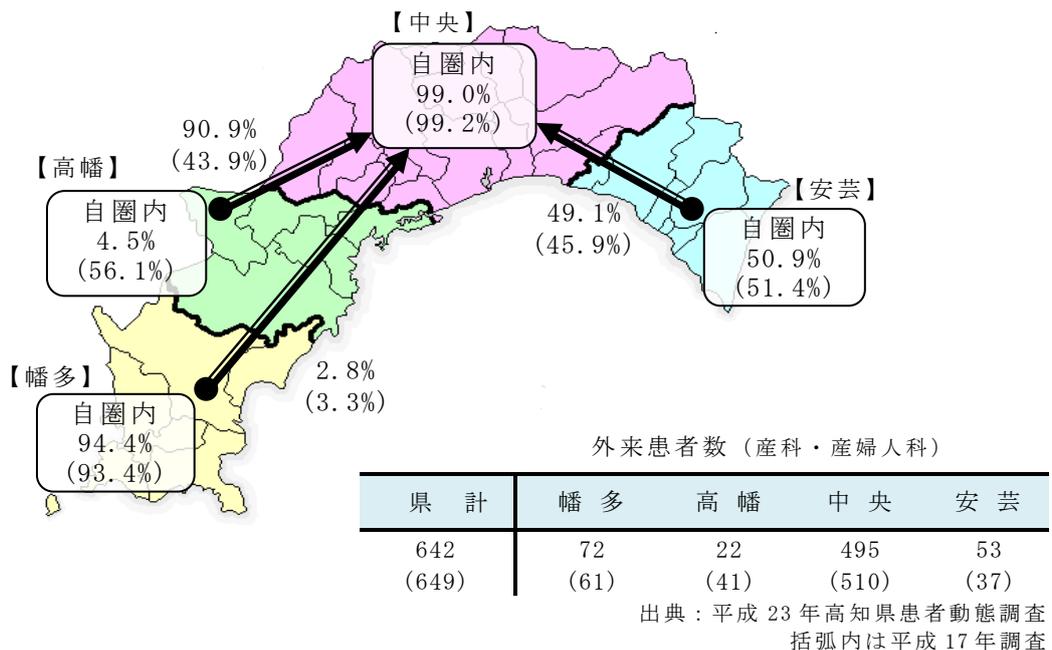
(図表 2-32) 外来患者の受療動向 (小児科)



## エ 産科・産婦人科

安芸圏域では 49.1%、高幡圏域では 90.9%の患者が中央圏域で受療しており、平成 17 年と比較すると、高幡圏域の患者が中央圏域で受療する傾向が進んでいます。これは、高幡圏域内で唯一の産婦人科を標榜する医療機関が、平成 21 年 12 月から分娩の取扱いを休止したことが影響していると考えられます。

(図表 2-33) 外来患者の受療動向 (産科・産婦人科)



## 4 入院患者の受療動向

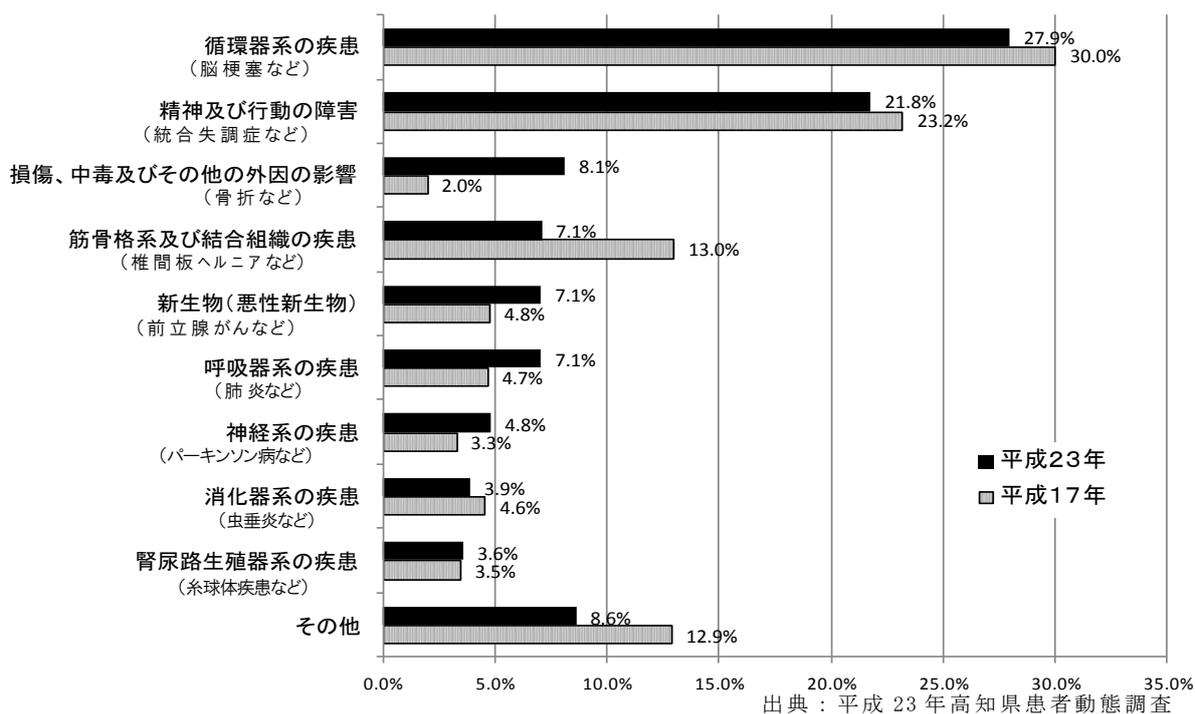
### (1) 受療原因別の入院患者数

平成 23 年に県が実施した調査では、当日 (9 月 16 日) に県内の医療機関において入院中 (当日入院した者を含む) の患者は、16,929 人 (平成 17 年の同調査 17,774 人) となっています。

疾患別にみると、脳梗塞などの「循環器系の疾患」が 27.9%、統合失調症などの「精神及び行動の障害」21.8%、骨折などの「損傷、中毒及びその他の外因の影響」8.1%となっています。

また、年齢別にみると「精神及び行動の障害」が、15 歳から 64 歳までの受療原因の第 1 位、65 歳以上においても第 2 位となっています。

(図表 2-34) 受療原因の上位 10 位 (入院)



(図表 2-35) 年齢階層別にみた受療原因の上位 3 位 (入院)

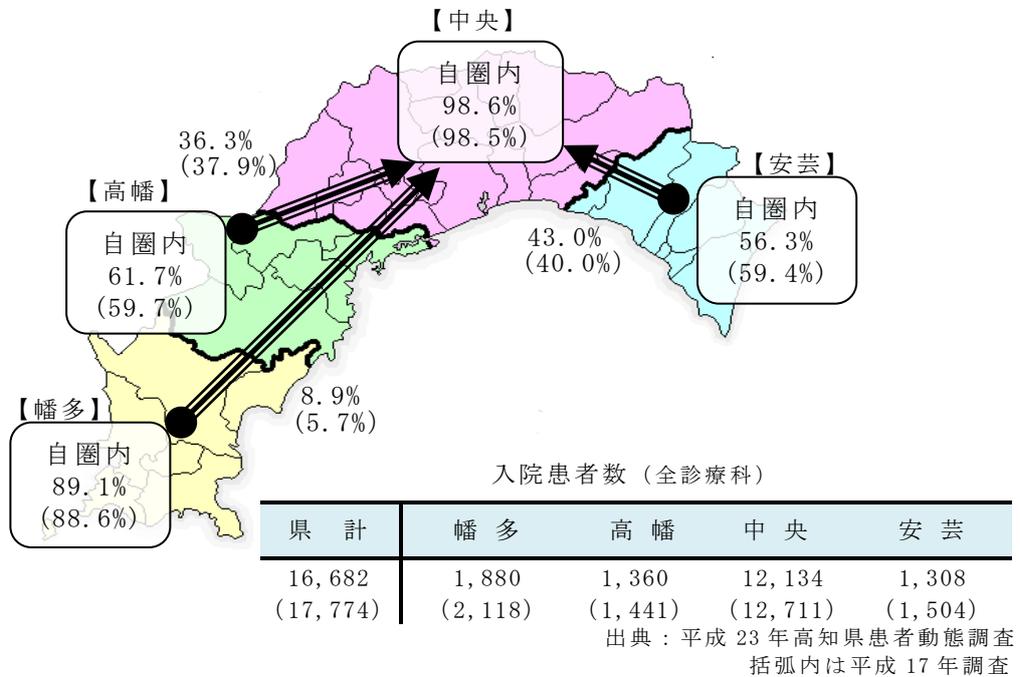
	第 1 位	第 2 位	第 3 位
0～14 歳	呼吸器系の疾患	神経系の疾患	筋骨格系及び結合組織、皮膚及び皮下組織の疾患
15～24 歳	精神及び行動の障害	筋骨格系及び結合組織の疾患	神経系の疾患
25～44 歳	精神及び行動の障害	新生物 (悪性新生物)	筋骨格系及び結合組織の疾患
45～64 歳	精神及び行動の障害	循環器系の疾患	新生物 (悪性新生物)
65 歳以上	循環器系の疾患	精神及び行動の障害	呼吸器系の疾患

出典：平成 23 年高知県患者動態調査

## (2) 圏域別の受療動向

安芸圏域では 43.0%、高幡圏域では 36.3%の患者が中央圏域で受療しています。

(図表 2-36) 入院患者の受療動向 (全診療科)

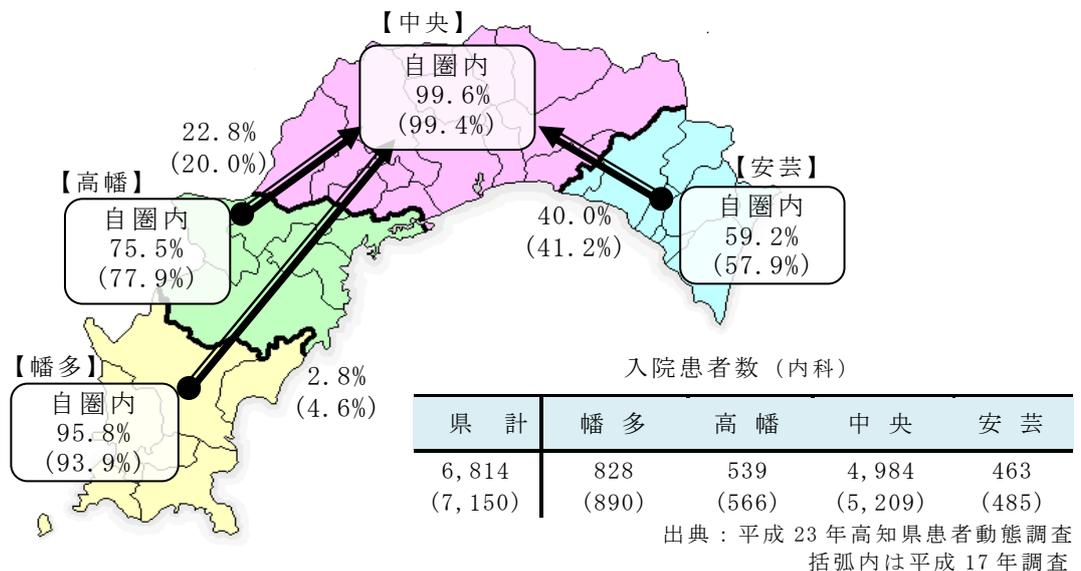


## (3) 診療科目別の受療動向

### ア 内科

中央圏域と幡多圏域では、ほぼ在住する圏域で受療していますが、安芸圏域では 40.0%、高幡圏域では 22.8%の患者が中央圏域で受療しています。

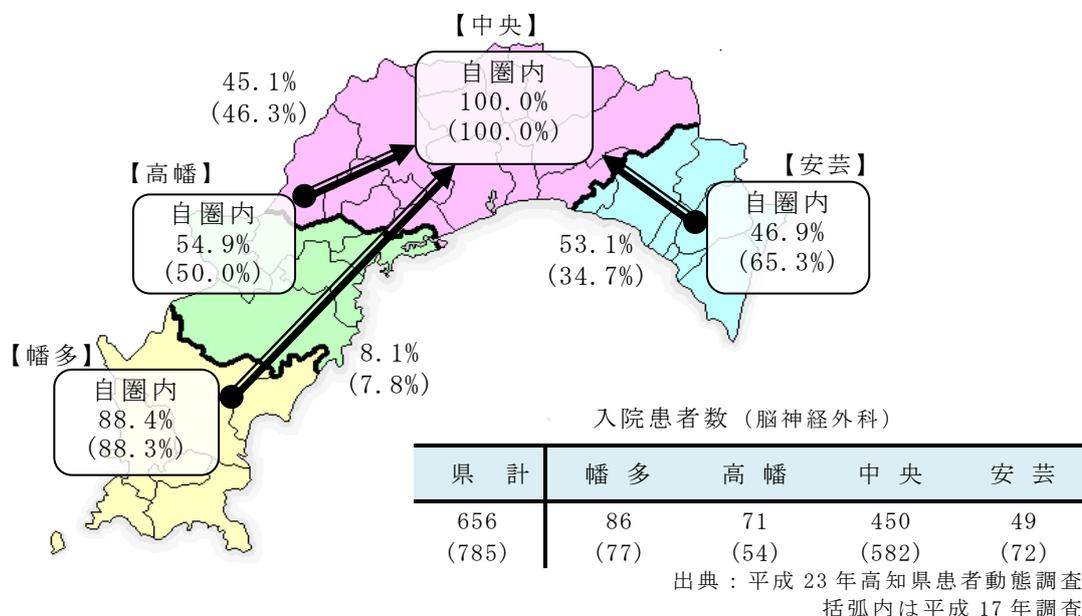
(図表 2-37) 入院患者の受療動向 (内科)



イ 脳神経外科

安芸圏域では 53.1%、高幡圏域では 45.1%の患者が中央圏域で受療しています。これは、脳卒中の重篤な患者を診療できる医療機関が、中央圏域に 7か所と幡多圏域に 1か所となっていることが影響していると考えられます。

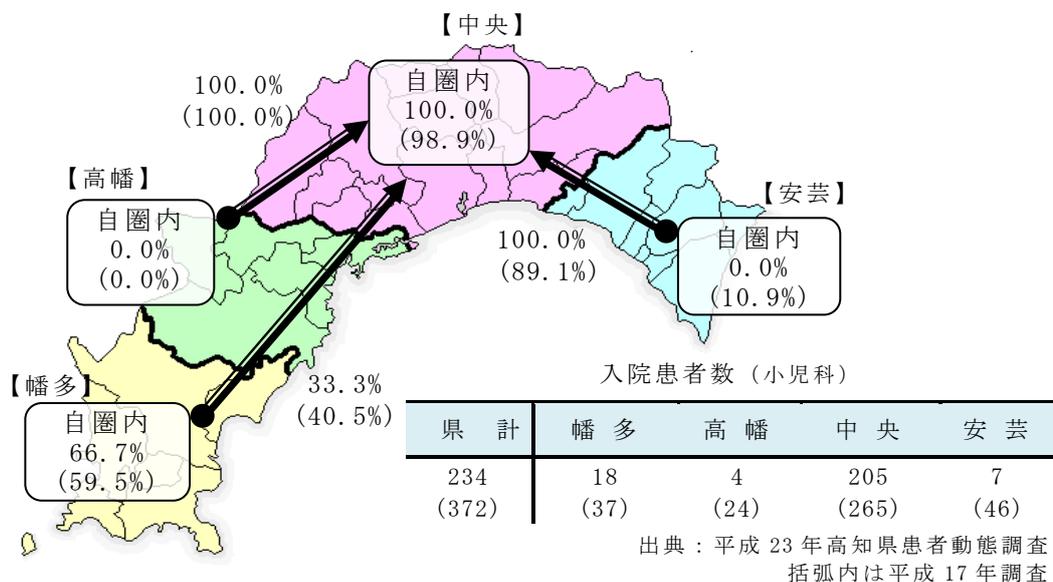
(図表 2-38) 入院患者の受療動向 (脳神経外科)



ウ 小児科

高幡圏域には小児科の入院機関がないことから、中央圏域での受療は 100% となっています。また、安芸圏域においても中央圏域での受療が 100% となっています。

(図表 2-39) 入院患者の受療動向 (小児科)

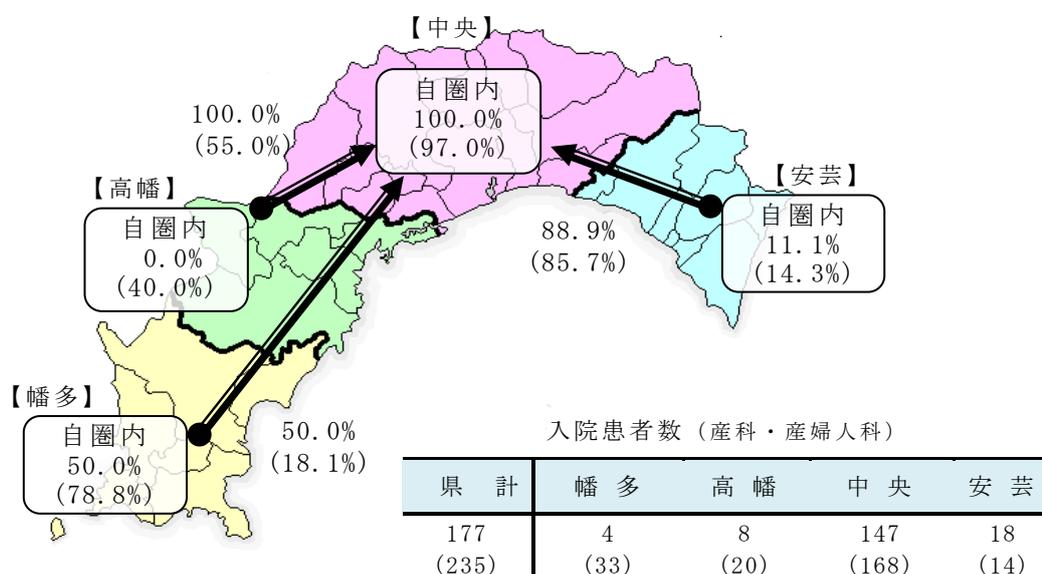


エ 産科・産婦人科

安芸圏域で 88.9%、幡多圏域では 50.0%の患者が中央圏域で受療しています。また、高幡圏域においては、産科・産婦人科の入院施設がないことから 100%の患者が中央圏域で受療しています。

なお、高幡圏域で居住する妊婦の分娩については、居住地区によって、一部は幡多圏域及び愛媛県での受療の動きはあるものの、多くは中央圏域で受療していると考えられます。

(図表 2-40) 入院患者の受療動向 (産科・産婦人科)



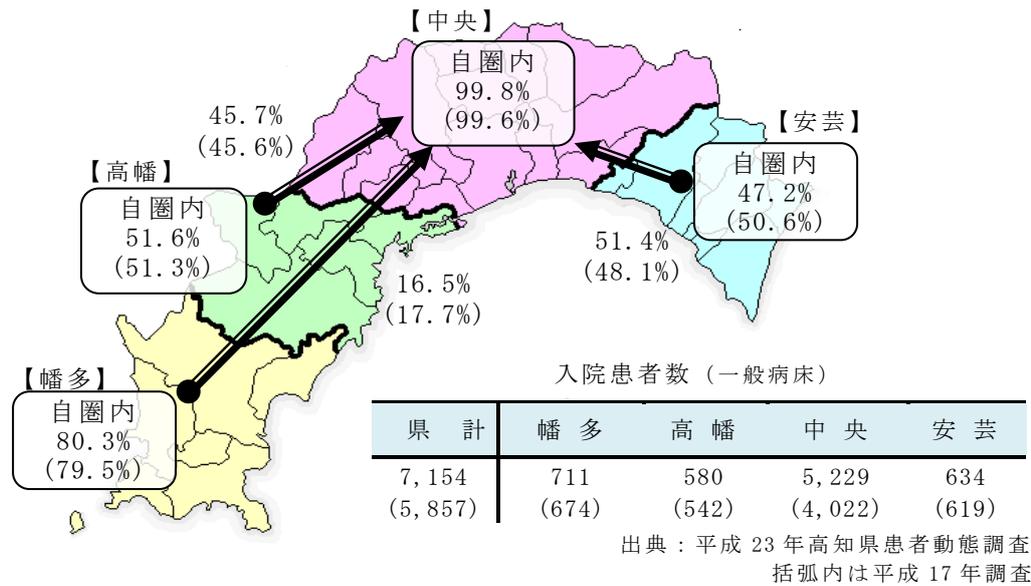
出典：平成 23 年高知県患者動態調査  
括弧内は平成 17 年調査

#### (4) 病床別の患者の受療動向

患者の受療動向を病床別に見ると、一般病床では、安芸圏域 51.4%、高幡圏域 45.7%、幡多圏域 16.5%の患者が中央圏域で受療しています。これは、専門医が中央圏域へ集中しているためと考えられます。

また、療養病床では、安芸圏域 48.1%、高幡圏域 21.7%の患者が中央圏域で受療しています。

(図表 2-41) 一般病床の受療動向



(図表 2-42) 療養病床の受療動向

